

「在宅でのストレッチプログラムの開発と効果検証-超音波画像を用いた検証-」

当院では以下の臨床研究を行なっております。

【研究課題】

在宅でのストレッチプログラムの開発と効果検証-超音波画像を用いた検証-

【研究の背景と目的】

足関節骨折術後は、筋の硬さにより足関節の運動範囲が狭くなり、日常生活や仕事復帰に悪影響を与えます。足関節の運動範囲にはヒラメ筋と前脛骨筋が関わっています。在宅生活へ移行する患者さまに対して、どのように自己管理可能な介入として応用すべきかは未解決の課題です。本研究の目的は、在宅でのセルフストレッチプログラムを開発し、その有効性を明らかにしてリハビリテーションに役立てることです。

【研究の期間】

2022年7月1日～2029年3月31日

【研究対象】

- ・当院に外来通院可能であり、足関節骨折の診断で観血的整復内固定術を受けられた方
- ・全荷重が許可された術後3ヶ月と5ヶ月の方

【研究の方法】

当院のリハビリテーションでは、術後3ヶ月、5ヶ月に機能測定を行っています。また、在宅での自主トレーニングとしてストレッチプログラムをおこなっております。

本研究では、その測定結果を部分的に2次利用し、研究を行います。

【利用する情報】

- ・基本情報（年齢、性別、身長、体重、BMI、利き脚）
- ・医学的情報（診断名、既往歴、手術記録、治療経過）
- ・筋や腱、脂肪組織の硬さ
- ・足関節可動域
- ・足関節筋力
- ・生活の質に関するアンケート

【予想される利益・不利益】

利益：ストレッチのプログラム立案に役立てることができ、より効果的な運動療法を提供できる可能性がある可能性があります。

不利益：筋力測定にともなう筋肉痛が生じる可能性があります。

【個人情報の取り扱いについて】

本研究の成果を、学術目的のため学会や論文で公表する際には、個人情報を厳重に守り、個人が特定されない形で使用します。

【研究協力の自由について】

研究への協力は自由意志であり、拒否された場合でも不利益はありません。協力を希望されない場合は、お手数をおかけしますが、2029年4月30日までに下記の連絡先までご連絡をお願い致します。

【利益相反について】

本研究に開示すべき利益相反はありません。

【オプトアウト期間】

承認を受けた日～2029年4月30日

【成果の公表形式と期間】

本研究の成果は、学会および査読付き原著論文として継続的に公表する予定です。

【研究責任者連絡先】

総合病院土浦協同病院

リハビリテーション部 宮阪隼人

電話 029-830-3711 (代表)